

令和2年第2回東大和市議会建設環境委員会記録

令和2年7月29日（水曜日）

出席委員（7名）

委員長	床 鍋 義 博 君	副委員長	尾 崎 利 一 君
委員	二 宮 由 子 君	委員	木 下 富 雄 君
委員	関 田 正 民 君	委員	佐 竹 康 彦 君
委員	中 間 建 二 君		

欠席委員（なし）

委員外議員（1名）

8 番 中 村 庄 一 郎 君

議会事務局職員（5名）

事務局長	鈴 木 尚 君	事務局次長	並 木 俊 則 君
議事係長	吉 岡 繁 樹 君	主 任	関 口 百 合 子 君
主 任	高 石 健 太 君		

出席説明員（2名）

市民部長	村 上 敏 彰 君	市民部副参事	宮 田 智 雄 君
------	-----------	--------	-----------

会議に付した案件

（1）所管事務調査

観光行政に関することについて

午後 1時30分 開議

○委員長（床鍋義博君） ただいまから令和2年第2回東大和市議会建設環境委員会を開会いたします。

新型コロナウイルス感染防止のため、3密を避け、広い空間を取る必要がございますことから、本日も、この全員協議会室において御協議いただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○委員長（床鍋義博君） 所管事務調査、観光行政に関することについて、本件を議題に供します。

本件につきましては、前回の委員会において、当市の観光推進事業の取組状況等において担当部署から説明をいただくことになっておりました。

それでは、当市の観光推進事業について説明を求めます。

○市民部長（村上敏彰君） 当市の観光推進事業の取組状況等の御説明に当たりましては、資料を御配付させていただきますと存じます。委員長において、よろしくお取り計らいのほど、お願い申し上げます。

○委員長（床鍋義博君） ただいま市民部長より申出のありました資料の配付については、委員長においてこれを許可いたします。

資料配付のため暫時休憩いたします。

午後 1時31分 休憩

午後 1時32分 開議

○委員長（床鍋義博君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

それでは、改めて説明を求めます。

○市民部副参事（宮田智雄君） それでは、平成30年度行政報告書396ページの観光推進事業に基づきまして、お手元に配付させていただきました資料の御説明をさせていただきます。

初めに、1ページ目を御覧ください。

1、観光推進事業の背景につきまして御説明いたします。

当市におきます観光推進事業は、平成25年に策定いたしました東大和市産業振興基本計画に基づきまして、産業振興の推進という役割を担っております。具体的には、東大和市の地域産業を育成し、併せて市民の暮らしを向上させるためには、農業、工業、商業のバランスの取れた振興が必要であります。一方では、本市の産業を取り巻く状況を見ますと、農業、工業、商業のおのおので問題を抱えている状況でございます。

そこで、豊かな自然をはじめとした東大和市の魅力を生かし、多くの人が東大和市を訪れ、「人々が集い賑わい、豊かな暮らしを育む東大和」を将来像と定めました東大和市産業振興基本計画に基づきまして、観光事業を用いた産業の発展を目指すことといたしました。

次に、2、観光事業（イベント）の効果につきまして、数字をお示ししながら御説明いたします。

観光事業におけます主力のイベントといたしましては、市民等の皆様との協働により開催しております、うまかんべえ～祭、まちフォトコンテスト、スイーツウォーキングの3事業がございます。それぞれ実行委員会を設置し補助金を交付するとともに、市と共催して事業を実施しております。また、まちフォトコンテスト以外の実行委員会には、東大和市商工会が参画してくださっています。

それでは、（1）うまかんべえ～祭につきまして御説明いたします。

この事業は、地域住民の交流と、にぎわいの創出及びグルメコンテストを通して地元食材を活用した東大和

らしいグルメの提供による東大和市の魅力発信を図ることを目的に、平成24年度から8回開催しております。

来場者につきましては、延べ人数になりますが、第1回の2万人から年々増加傾向にあり、第8回では約4.3倍の8万6,500人の方々に御来場いただきました。特に平成29年度の第6回では、メイン会場を都立東大和南公園の運動広場に移動し、来場者の増加に対応しております。また、当日実施いたしましたアンケート調査の結果では、交流人口に関しまして約3割の方が市外からの来場者となっております。

次に、協賛等団体数につきましても年々増加傾向にあります。実行委員会といたしましては、多くの来場者の方々により楽しんでいただけるようにと、第7回では協賛等団体を広く呼びかけ、来場者に見合う規模のお祭りの運営を進めてまいりましたが、一方では東大和らしさという地域性が薄れてしまうとの反省を踏まえまして、第8回では協賛団体は商工会等の市内事業者を優先し、公募は取りやめております。

最後に、経済効果につきまして、お示ししたとおり、会場内での売上額を調査したのですが、会場周辺の食品等販売店にお聞きしたところ、お祭り当日の売上は伸びているとお話を伺っております。

以上のとおり、事業目的でありますにぎわいの創出や、市の魅力発信、また地域経済に対しまして一定の効果があつたものと考えております。

続きまして、2ページ目をお開きください。

こちらは、実行委員会とアンケート調査での御意見の一部を記載してございます。

実行委員会では、年々、組織及び団結力が向上しているなど、前向きな御意見が聞かれております。また、788件いただきましたアンケート調査の分析では、58%は御家族で来場され、77%は再来場者、リピーターとなっております。また、44%の方が魅力的なイベントはグルメコンテストと捉えておまして、99%の方が次年度の来場意向を持たれている状況で、集客性の高いイベントといたしましては、おおむね良好でございます。

続きまして、(2)東やまと市まちフォトコンテストにつきまして御説明いたします。

この事業は、写真を通じて、当市の魅力の再発見と新たな観光スポットの発掘及びその魅力発信により、市の認知度とイメージ向上を図ることを目的に、平成24年度から8回開催しております。

応募作品数及び応募者数の推移では、平成30年度には応募点数上限をお一人20点から15点に減らしたこともございまして、応募作品数に影響が生じているものと考えております。これまで約3,500点の応募作品が寄せられ、このうち市内を撮影した入賞、入選作品は約140点に及んでおります。

多摩湖や旧日立航空機変電所をはじめ、歴史、自然、文化などにスポットを当てた多様な作品を見ますと、当市の魅力の再発見では、毎年その効果がうかがえます。また、新たな観光スポットの発掘という目的は、ある程度達成されたものと考えております。

入賞作品の活用及び情報発信の状況につきましては、表のとおりでございます。平成31年度からは、情報発信のさらなる広域化を図るため、国土交通省関東地方整備局が主催します写真展、「関東甲信 景観さんぽ」に入賞作品を出展し、千葉、埼玉、長野県などでの展示の機会を有効活用してございます。

次に、実行委員会での御意見の一部を記載しております。コンテストを開催する意義等、充実した様子がうかがえる御意見が聞かれました。

続きまして、3ページ目をお開きください。

ひがしやまとスイーツウォーキングにつきまして御説明いたします。

この事業は、市内に点在するスイーツ店を巡りながら、隠れた逸品の魅力の再発見と、参加店のPRや参加者の健康増進、また、交流人口の増加による地域活性化を図ることを目的に、平成24年度から8回開催してお

ります。

当初から人気の高い事業であり、平成27年度からは定員数を600人に増加し、2日に分けて開催しております。当日参加者数は、天候にも左右されますが、平成30年度からインターネットでの申込み方法を導入したことからキャンセル待ちの仕組みが整い、参加率は90%以上を維持しております。また、当日実施いたしましたアンケート調査結果では、4割の方が市外からの参加者であり、交流人口の増加では効果があったものと考えております。

次に、実行委員会とアンケート調査での御意見の一部を記載してございます。

実行委員会では、市内外の新規顧客の獲得に結びついているとの感想が書かれています。また、281件いただきましたアンケート調査の分析では、54%の方は2回以上参加されたリピーターです。年齢構成では、30代から50代の参加者が全体の7割を占めております。また、68%の方が立ち寄った店舗で商品を購入している状況で、おおむね目標を達成しております。

続きまして、4ページ目をお開きください。

3、観光宣伝事業のターゲットと効果につきまして御説明いたします。

初めに、(1)観光マップの発行についてでございます。

市外の方をターゲットに、来訪者増加と市内回遊の誘発を目的として、平成24年度から観光マップを作成し、市内のほか、都内の自治体及び東京都観光情報センター5か所に設置しております。平成30年度に形状を一新し、翌31年度には、この仕様をベースに多言語マップを作成いたしました。外国人旅行者向けの受入れ環境の整備及び従来の日本語版マップと併用することで、さらに利便性を高めることができました。

なお、観光マップの効果を示す、観光入り込み客数の測定は実施してございません。

次に、(2)スイーツをテーマとした冊子の発行についてでございます。

先ほど御説明いたしましたスイーツウォーキングと連動したガイドブックの発行により、市内外の方をターゲットに顧客獲得に向けて情報発信をしております。

こちら、ガイドブックの効果を示す観光入り込み客数の測定は実施してございません。

次に、(3)東大和市観光キャラクター「うまべえ」を活用した市の魅力発信につきまして、うまべえの変遷と併せて御説明いたします。表を御覧ください。

平成24年度に、うまかんべえ〜祭グルメキャラクターとして誕生いたしました。25年度のうまかんべえ〜祭では、着ぐるみを初お披露目し、主に市内の団体をターゲットとして貸出しを開始いたしました。

うまべえの認知度をさらに上げる取組といたしましては、26年度には、全国的なイベントであります、ゆるキャラグランプリに初出場しましたが、残念ながら目標とした総合第100位入賞には届きませんでした。また、この年には、うまべえの幅広い活用を進めるために、グルメキャラクターから東大和市観光キャラクターに位置づけを変更するとともに、知的財産権を整えました。

27年度には、2年連続となる、ゆるキャラグランプリに出場し、総合第94位と目標が達成できましたことから、うまべえの認知度を向上する取組から、うまべえの活用度を高める取組に主眼を置くように、方針を切り替えております。

28年度には、2体目の着ぐるみを作製し、貸出しと活用の機会をさらに増やしました。昨今では、テレビでの露出やスマホゲームでの登場、またデザインマンホール蓋に活用するなどして、話題性をつくりながら集客に取り組み、市の魅力発信では効果を上げているものと考えております。

続きまして、5ページ目をお開きください。

初めの表では、過去8年間のうまべえの活動実績をまとめております。うまべえの変遷での内容がほぼ数字に反映されておりますが、いつときのゆるキャラブームが下火になっております昨今にありましては、比較的稼働できているものと認識しております。

次の表では、うまべえグッズによる経済効果の一例としまして、市職員が購入しました、うまべえポロシャツの販売実績をまとめてございます。こちらの製品は市内の2事業者が取り扱っており、合算した数字でお示しております。販売開始後8年間で1,997枚、売上総額457万7,650円になってございます。

次に、(4) 観光アプリケーションの配信について御説明いたします。

表につきましては、平成27年度の配信開始からの稼働状況をアプリのダウンロード件数及びアクセス回数でまとめております。

平成30年度は、情報発信数を増やす取組といたしまして、情報入力用のタブレット端末の整備と、庁内向けの運用要領とマニュアルを制定いたしました。その後、アクセス回数は増加傾向にあり、情報発信では一定の効果があったものと考えております。

なお、観光アプリの効果を示す観光入り込み客数の測定は実施しておりません。

続きまして、6ページ目をお開きください。

4、狭山丘陵観光連携事業につきまして御説明いたします。

初めに、(1) 経緯についてでございます。

狭山丘陵を魅力ある環境にしていきたいという共通の思いから、東大和市、武蔵村山市、東村山市の3市と都立公園の指定管理事業者の3自治体1事業者が、平成29年度に狭山丘陵観光連携事業推進実行委員会を設立し、東京都市長会の年間500万円の助成金を活用しながら、3か年計画で連携事業を開始いたしました。平成30年度に瑞穂町、入間市、所沢市が、平成31年度には県立公園の指定管理2事業者が参画し、広域化した9団体で連携体制を確立いたしました。

次に、(2) 事業内容についてでございます。

訪れてみたい、住みたい、住んでよかった、住み続けたい、と思える魅力あるエリアの実現を目指し、各団体が連携して観光施策を展開することを目的に、1年目は基礎調査を実施し、2年目は基礎調査の結果を踏まえた狭山丘陵観光連携プランを策定いたしました。3年目は、狭山丘陵観光連携プランに基づきまして、記念イベント、SAYAMA HILLS RIDEの開催、ロゴマークの開発、ガイドマップ及びPR動画を作成して、狭山丘陵の魅力を情報発信し、観光客誘客促進を図りました。

次に、(3) 事業効果についてでございます。

①、民間事業者との連携。広域連携事業を推進するに当たりましては、民間事業者等の方々との連携が必要なことから、民間事業者同士の意見交換会や、また、記念イベント等をきっかけに、行政と事業者間での連携体制構築に向けて効果がございました。

続きまして、7ページ目をお開きください。

②、「狭山丘陵」の魅力発信。狭山丘陵観光連携プランでは、近隣住民のファミリー層をターゲットに、観光及び交流人口の増加を目標にしていることから、記念イベント等の取組は、広い世代の方々に狭山丘陵の魅力を知っていただくきっかけとして効果がございました。

次に、(4) 今後の展開についてでございます。

①、平成31年度に作成しましたサイクリングマップ、ロゴマーク、PR動画を、各自治体や事業者が有効活用することで、引き続き狭山丘陵の魅力を広域連携で情報発信していく。

②、実行委員会では、事業の継続を図る上での財源確保につきまして、公益財団法人東京観光財団の補助金等の活用について協議をしてございます。また、民間事業者との連携体制を強化していく上では、お金が落ちる仕組みの構築を目指して、財源確保及び経済効果が得られる仕組みについて検討していく。

③、②におけます財源確保が困難な場合でありましても、各団体の既存のイベントに参加するなどして、連携の深化を進めながら狭山丘陵の魅力発信に努めていく。

以上のことを令和2年3月に開催いたしました実行委員会にて確認しております。

これもちまして御説明のほう、終了させていただきます。

○委員長（床鍋義博君） 説明が終わりました。

それでは、ただいまの説明に対して、質疑、御意見等ございましたら、御発言願います。

○委員（佐竹康彦君） 御説明いただきまして、ありがとうございました。

様々やることは、やっていらっしゃることは存じ上げてるんですけども、ここまで細かい数字を出して御説明いただいたので、本当にこの市の観光事業として、それぞれのイベントですとか、様々な連携事業が進んでるなということを実感させていただきまして、まず御担当者の方、関係者の方々に、心から敬意を表するものでございます。

その中で、まずは東やまと市まちフォトコンテストなんですけれども、成果物、展示会場数等で、フォトブックですとか展示会場等ということなんですけど、こういったこと、さらにそれ以外の媒体を使って、このコンテストなりその作品を展開してくってということのお考えがあるのかどうかということと、その参加者、応募者が増えたり減ったりしてる中で、大体増加傾向にあるのかなっていう気もしてるんですけども、毎回毎回同じ方が、毎年毎年応募されてるのか、それとも新規の方も一定程度いらっしゃるのかっていうところを、お伺いできればというふうに思っております。

あと、ひがしやまとスイーツウォーキングにつきましては、協力団体が一定……27年度以降は17団体前後で推移されておりますけれども、またこの市内でも新たにお店を始めていらっしゃる方ですとか、また個人で、例えば通販等でやっていらっしゃる方もいらっしゃるかもしれませんけども、こういったこの団体数をさらに上げていこうっていう考えがあるのかどうかということをお伺いできればというふうに思っております。

あと、具体的に新規顧客の獲得に結びついてるといふことなんですけど、市内の方が主なのか、やっぱその市外の方が結構4割程度参加されてますけれど、市外からもやはり足を運んでお買い上げいただいているのかどうかということについても御確認をさせていただければなというふうに思っております。

まず、この3点でよろしく申し上げます。

○市民部副参事（宮田智雄君） まず、御質問ございました、まちフォトコンテストについてでございます。

情報発信に関する媒体についてでございますが、現時点ではフォトブックをまず作ることを優先して、アナログ的に進めておるところでございますが、必ず市のホームページ、それから観光アプリ等で、その辺のネット上の情報というのは展開してるところでございます。

さらなる、SNSと言われるものを使ってというのは、実行委員会では実はInstagramの公式アカウントをつくってございますので、そういうところを活用しながらPR活動は進めていきたいというような話は、実行委員会の中でもお伺いしてるところでございます。

続きまして、まちフォトコンテストの参加者、応募者についてでございます。

ある程度人数、応募点数、それから応募者数が、大体120前後というところで変動してるところでございます。

実は、こちらの申込みは、申込み時点では個人が特定できないような形で申込みを受けてございまして、入賞した時点で改めて、寄せられたメールアドレス等で御連絡を取り合うというところ、そこで初めて、前回は御応募されたかどうかということが分かるところでございまして、なかなか正確なことは言えませんが、ただ全体的には、やはりこの、まちフォトコンテストが皆さんに浸透してるのか、毎年応募してくれる方が多いような傾向でございます。

続きまして、スイーツウォーキングにつきましてです。

スイーツウォーキングにつきまして、団体数、参加店舗を今後増やすかどうかというお話になりました。

やはり、冒頭で御説明したとおり、産業振興を観光で寄与していく、盛り上げていくという視点では、できる限り多くのスイーツ店が、1店でも多く参加していただきたいということで、実行委員会でも横の声をかけをしております。また、市内ではスイーツ店が、ここでまた新たに何店舗かオープンをしてるところでございます。スイーツ店の皆さんの横のつながりで、新しい店舗さんも実行委員会に加わったりしてくださっておりますので、やはり事業者の皆さんの横のつながりというところが、一つのキーワードになるのかなと思っております。

また、現在、実は令和2年度につきましては、このコロナ禍がございます。正直、国の動き、東京都の動向、また、近隣自治体のイベントに関する取組の動向を見ながら、今スイーツウォーキングの実行委員会と、どのような形で進めていくか考えておりますが、1つはプランの段階ですが、今回、「#東大和エール飯」が、かなり飲食店として活動しておりますので、そことの連携によって、少しスイーツ店以外のところも取り込んでいって、経済活動に少しでも支援できるような、そんな取組をしたいということを、実行委員会の中でも、今話題として出てるところでございます。

最後になります。スイーツウォーキングの参加者につきましては、市内、市外ということになりますが、こちらのイベントが、交流人口を増やしながらか、しかも産業振興を進めていくという中では、一番観光担当としても手応えのある、成果のある事業だなということが、感じてるところでございます。

お店の立地条件にもよるんですが、多摩モノレール付近の店舗さんにつきましては、やはり多摩モノレールを利用して、南北の動きの中で、市外の方が多くいらっしゃるというようなお話は聞いてるところでございます。

大体、新規の方も含めまして、この4割というところの数字で収まってるかなというような状況でございます。

以上でございます。

○委員（尾崎利一君） 御説明ありがとうございます。

1ページの、この観光推進事業の背景っていうところに関わってですけれども、御説明の中で、市内地域産業育成するっていう点で、農業、工業、商業、それぞれ課題があると。それで、観光事業を用いた産業の発展を目指すっていうことで、この観光事業が位置づけられてるっていう御説明でしたけれども、改めて産業振興基本計画を確認させていただければ書いてあるんだと思うんだけど、農業、工業、商業の課題っていうのがね、どういうものなのか、それで今ずっと御説明していただいた観光事業の推進で、農業、工業、商業、それぞれの分野で、どのような影響っていうか、発展に寄与しているのかっていうのが1点です。

それから、6ページ以下の狭山丘陵観光連携事業ですけれども、補助金が3年間だっていうことで、記念イベントのSAYAMA HILLS RIDEやって、何となくこう、さあこれからっていう雰囲気のところ、補助金は切れちゃうみたいな感じになってるってことですが、ちょっと今後の展開っていうことで、7ページのところで①、②、③っていうことで、今年の2月ですか、3月ですか、確認したっていうことですが、今年度の取組、もしくは今年度以降の取組っていう点で、どのような動きがあるのかっていうのを教えていただければと思います。

○市民部副参事（宮田智雄君） それでは、今御質問ございました、冒頭の観光推進事業の背景のことについてでございます。

産業振興基本計画におきまして、農業、工業、商業との後押しというところで、観光事業を推進してるところでございますが、課題といたしましては、農業では、こちらの資料でも書かせていただいておりますが、1ページ目になります、都市化による農地の減少や担い手の高齢化という問題が1点。それから、工業につきましては、大規模宅地開発等の影響による住工混在の中での厳しい事業経営と操業について。それから、商業につきましては、近隣地域への大規模商業施設の進出や事業者の高齢化により、顧客の減少や売上げ不振など、このような問題を課題として抱えてございます。

続きまして、この観光事業が、どのようにこの3事業に寄与していくのかというところのお話になります。

個々を見ますと、それぞれの今日お話ししたイベントで、それぞれ商工会さんが加わっていただいたり、いろんところでつながりがあるんですが、一番私たちが今考えておきたいと思うことが、やはり連携をしていくというところ、これが一番かなというふうに今捉えております。

それは、大きく言いますと、狭山丘陵観光連携の連携事業もそうでございますし、市内におきましては、現在ここではちょっと御説明をしていませんけれども、プラットフォーム運営会議という観光地域づくりについて、異業種の方々、こちらには大学生、大学も入ってくださっておりますが、その方々いろいろな研究会をしておこうということで会議を進めてございます。要はその、農業、工業、商業の皆さんが、異業種交流の中で新たな、東大和市に地域性を生かした観光事業展開ができないものかというところで協議を進めてるところが、今とても私たちが着目してるところでございます。

今年の3月、残念ながらコロナ禍の影響で実施できませんでしたが、このプラットフォーム運営会議では、多摩湖を活用して狭山公園さんとタイアップをして、あそこになぎわいをつくろうというところで、いろいろ企画を立てたところ、これは本当に大きな成果だったんですが、そのような形で連携事業で寄与してるという状況でございます。

私のほうは以上になります。

○市民部長（村上敏彰君） それでは私のほうから、狭山丘陵観光連携事業の今年度以降の取組ということについて御説明をさせていただきます。

この事業者の報告書にもございますように、第一番の事業効果といたしましては、民間事業者、先ほど宮田副参事のほうからもありましたけど、民間事業者との連携というところが、他団体との連携ですね、こういったことが深まったというところが大きな成果だというふうに考えてございます。

実は、私どもがやってる、近隣市の自治体だけではなくて、観光協会あるいは、うちでいけば狭山公園パートナーズか……（「西武・狭山」と呼ぶ者あり）西武・狭山丘陵パートナーズとの連携を深めたことによりまして、プラットフォームがやろうとしていた、今回実際できませんでしたが、そういった事業についても

大変協力的で、今まで以上に積極的な御関与いただける予定でした。そういうことがございます。

今後の取組ということでございますけれども、観光事業につきましては、実は今年度、説明のところにもございましたように、東京観光財団の補助金を活用しようというお話もございました。

観光の補助金につきましては、他の補助金もそうですけれども、行政主体で行うということではなくて、民間の事業者が主体的に取り組む事業に対して行政がサポートしていくという形が、補助の交付要件となつてございますので、こちらにつきましても、観光財団の補助金につきましては、今年度武蔵村山市のほうで観光協会を立ち上げるということがございましたし、所沢市は観光協会がございますから、そういった観光協会を中心に、あとは関連する市の商工会のほうの連携、あるいはそれを自治体のほうがバックアップするという形で、今回の観光財団の補助金を活用して行おうということでございましたけれども、前半部分につきましてはコロナ禍の影響で、そちらについても中断をしているということでございますが、後半また秋口には同じ応募がございますし、また来年度以降もこうした応募があるというふうに向つてございますので、こうしたものの活用について検討する中で、事業を進めてまいりたいということでございます。

以上でございます。

○委員長（床鍋義博君） ここで5分間休憩いたします。

午後 2時 4分 休憩

午後 2時 8分 開議

○委員長（床鍋義博君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

御意見ありますか。

○委員（木下富雄君） 観光事業の各イベントを、数値的データをつけて御説明いただきまして、誠にありがとうございました。

その中で、ちょっと1個だけ質問させていただきますと、スイーツウォーキング……各どの事業も、実行委員会と市の共催という形を取ってる中で、スイーツウォーキングの実行委員さんの内訳と申しますか、このスイーツウォーキング実行委員の中には当然、出店者の店舗の御主人様もいらっしゃると思うんですが、そこ協力していただいている店舗以外の方の力というの、非常に重要な実行委員会になるのかなと思ひまして、その内訳と、もし出店店舗以外の実行委員の数とかがもし分かりましたら教えていただきたいと思ひます。

○市民部副参事（宮田智雄君） 御質問ございましたスイーツウォーキング、3ページでございます、スイーツウォーキングの協力団体数についてでございます。

団体数と実行委員数が1ずつカウントがずれてると思ひます。実は、参加店舗の団体さんイコール実行委員で、皆さん入っていただいております。あとお一人というのが、先ほどお話ししました東大和市商工会の方に委員に加わっていただきながら、また客観的な目で販売等の指導等、視点をいただいているというようなところでございます。

以上でございます。

○委員（木下富雄君） 何か内訳構成を聞いた中では、各店舗に既存のお客様いらっしゃる中で、ヘビーユーザー等の声とかを、その他のお客様に伝えていただいたほうが、より力があるような発信ができるのかなと思ひまして、そんなことをちょっと質問させていただきます、実行委員のメンバー構成についてもちょっと考える余地が、それぞれのイベントにもあるのかなと思ひまして、その構成次第では、訴えかけるチャンネルを

それぞれ持つての方が一緒に入っていたら、効果も最大限に広がるのかなと思ひまして、ちょっと質問させていただきます。

○委員（佐竹康彦君） 資料の4ページの観光宣伝事業に関連してなんですけれども、観光アプリと、また先ほどInstagram等もお話もございましたけども、このSNS等の活用等について、今後の方向性、どのようなことをお考えなのか伺いたいのと、あともう一つ、先ほどのお話で、連携をしていくのが非常に重要であるという御指摘の中で、プラットフォーム運営会議には、大学さんとか様々な異業種の方が入ってらっしゃるというお話を伺いました。宣伝事業とも関連して、この異業種とのこの交流の中で、例えば文化系、文化事業を行ってらっしゃるような事業者の方がいらっしゃるのか、例えば映像制作の方とか、書籍出版の方とか、例えばイベントで様々なパフォーマンスしていただくような演劇集団とか、パフォーマンス集団の方とか、そういった方々も入って会議されていらっしゃるのかどうか、この点について伺いたいと思ひます。

○市民部副参事（宮田智雄君） それでは最初の、今後の情報発信におけるSNSの活用についてでございます。

現在、市としまして公式のSNS——ツイッター、フェイスブックは公式アカウントございますが、今どうしても写真投稿では、Instagramが一番手軽に使われている情報発信ツールの一つかなとは思ってるところでございますが、市としてはなかなかこれを公式で持っていくことが、今の時点では難しいことがございますので、私たち観光事業のセクションとしましては、民間事業者さんのお力をお借りしながら、この辺のInstagramを中心としたSNSの活用はしていきたいというふうに思っております。

一例ではございますが、今回の「#東大和エール飯」につきましては、実は発足した皆さんが、御協力してくださる皆さんが、プラットフォーム運営会議の委員としても所属しての方々なんです。ですので、横のつながりでお話がすごく整ったことと、事務局でいらっしゃる企業さんは、ウェブクリエイティブの企業さんでございますので、そこの皆さんのお力を借りて情報発信をしてるということでございます。

現在はそういう民間事業者の皆さんのお力を借りながら、このSNSの活用というのを考えていきたいと思っております。

続きまして、プラットフォームの委員の構成についてでございます。

先ほどもお話あったとおり、クリエイティブな映像等の企業の社長さんも入っていらっしゃいます。今回の3月に行く予定でありました検証事業も、来年のPRに向けてのビデオを撮影していこうかなんていうところでのアイデアなんかもあったところでございます。

それからあと、演劇等の文化的なところにつきましては、現在それにたけているという職業の方はいらっしゃいませんが、ただ、東京経済大学、それから東洋大学も去年から入っていただいておりますが、やっぱり大学生さんの御意見というのは、とても私たちには想像できないぐらいの新鮮な御意見がありますので、そういうような皆さんの日常生活の体験談を聞きながら、何かこう、つながっていければなんていうことを考えてるところでございます。

以上でございます。

○委員（二宮由子君） 狭山丘陵観光連携事業についてなんですけれども、これは東京都市長会の年間500万円の助成金を活用されて3年間ということなんですけども、年間500万で、3年間で1,500万の助成金を活用して、記念イベントとしてSAYAMA HILLS RIDEを開催をされたんですけども、それが集客目標が550人に対して510人ということで、少しちょっと残念だったかなんていう気がするんですけども、もちろん、狭山丘陵の魅力を知っていただくにはいい機会であったと思ひますけども、やはりこれから3年間だけではなく

て、先ほどの御説明でも財源の確保というのが非常に重要だというふうにおっしゃってましたけれども、もう少しこう、何ていうんでしょうか、SNSで発信するですとか、そういった必要もあったのではないかなというふうに感じました。

私も実際、SAYAMA HILLS RIDEに参加をしたというか、現地のほうには行ったんですけども、パンフレットが非常に高級だったというか、高そうなパンフレットであつたりとか、あとイベント自体は、非常に集客も見込まれるのではないかなというイベントだったんで、残念ながら、事前の発信というのが、あまり上手じゃなかったのかなっていう気はしたんですけども、そういった点をもう一度伺いたいのと、やはりこれから、せつかく連携をされたのですから、これからもSNSなり何なり、この狭山丘陵という自然を活用して、ぜひこういった企画を、東大和市率先して実施をしていただけたらなというふうに思いますが、そういった点についてもちょっと伺いたいと思います。

○市民部副参事（宮田智雄君） ただいまの御質問ございました、狭山丘陵観光連携事業の記念イベントを振り返ったところでのお話になります。

まず準備のほうで、要約しますと、不十分な中での開催であつたのではないかなというような趣旨かなと思っておるところでございます。

実は、9団体が集まって同じ方向性を向いて1つの事業展開をしてこうというところを固めるのに、実は一番そこに時間がかかっていたというのが本音でございます。各自治体の観光事業の取組方法、また組織体制、違う中で、共通点を見いだそうというところ、ある意味では、みんながフィフティー・フィフティーになるような形、ここを取ろうというところ、それに見合った事業展開するというところで、かなり企画に時間がかかってしまったということがございます。

ただ、観光連携プランの中でもお示ししており、幾つかの課題がある中では、やはり連携をしていくという中、みんなを狭山丘陵を回っていただくという中では、二次交通の充実というのが大きな課題であろうところは共通認識でございました。

具体的には、シェアサイクリングを何か導入できないのかとか、1市ではできないけど、みんなではできないんじゃないとか、そういうような議論がずっと続いておりました。自転車というテーマが確定したのは、実は昨年の年度当初ではなく、その辺のところをかなりもんだところで、テーマとなる自転車というところがピックアップできたということもございましたので、そこからイベントを組んでいくということになりますと本当にぎりぎり、12月になってしまったというのが、これが実態でございます。

できれば本当は9月ですとか、いい時期にというのはみんな思っていたとこだったんですが、昨年度につきましては東京2020オリンピックの契機で、各自治体、各県、東京都も含めて、イベントが続いておつたところだったので、ちょうど合間が空いたのが、その12月15日ということで選定させていただきました。

それから、PR方法につきましては、確かに情報発信もっと事前にすべきだなというところは、ひとつ反省すべきとこだと思っております。特に、SNS等を活用したPRは重要かと思っております。

一方その中で、やはりこれは事業協力の中で、民間企業の協力としましては、新聞の号外号を御協力いただいたということ、10万部を地域に配布させていただいたということ。始まりは、当市のうまかんべえ～祭から始まった号外号の取組は地域に広がったんですが、こちらの効果はとても大きかったかなと思っております。行政として費用をかけずとも、こういう形で御協力をいただける、そんなやっぱり連携が重要であつたかというところを、改めて思つてるところでございます。

以上でございます。

○委員（中間建二君） 御説明ありがとうございます。

何点か伺いたいと思います。

1 ページ目のうまかんべえ～祭ですけれども、改めて来場者数等の数値を示していただきますと、年々の増加、また観光イベントとしては大きく成功されてる様子が確認ができると思います。

限られた日数、また場所ですので、来場者っていうのは一定の限度等もあるかと思うんですが、当然これからは継続して実施をしていくことになるかと思うんですが、1つは来場者の目標設定、または交流人口も、当然市民の方はそうなんですけれども、観光という意味では、市外からも多くの人に足を運んでいただきたいという考え方も当然あるかと思うんですが、来場者数のイベント事業としての目標なり、また交流人口の目標ということについて、どのように考えておられるのか。

また、30年度と31年度で、先ほど、なるべく市外ではなく市内事業者に取り組んでいただくという考え方の下で、参加団体が減少した形になったという御報告いただきました。一方で、それでも参加人数は増えてるわけですので、事業としては推進がされてるわけですが、売上額が落ちてるということで、このあたりは、参加人数増えてるのに売上額が落ちたということについては、どのような形になってるのか、ちょっとこの点について御説明いただきたいと思います。

○市民部副参事（宮田智雄君） それでは、資料の1 ページ目のうまかんべえ～祭についてでございます。

まず、来場者の目標数値がどのくらいかというところでございますが、実行委員会の中でも、これまで8回開催した中で、特に第6回から会場を移して、規模的には大きくなってございます。

手前みそになりますますが、どんどんどんどん膨れ上がっていきだろうなということは、実行委員会の中でも可能なものだろうなというような期待感を持ってるところがございますが、現状といたしまして、やはり現在の実行委員会の構成メンバー等を含めると、大体8万人規模が、ここがもう安全面から何から考えると、限界であるかなというところの一定ラインは出しております。そんなところをベースに、出店団体であったり、いろいろな会場設営であったり、毎回その8万という数字を目標に設営をしているというような状況でございます。

続きまして、交流人口の目標についてでございます。

この交流人口については、数値を明確に取っていないところ、アンケートで、しかもそれも全部のアンケートではございませんので、先ほど言ったとおり、約3割の方が市外の方ということになっております。

ただ、交流人口を増やすための取組といたしまして、やはりここも民間企業さんのお力を借りてるところなんです。昨年鉄道会社さんの中づくり広告を、これを協賛という形で御協力いただきました。2,000枚です。本当は西武新宿線のみと思っていたところ、何かお話を聞くと、横浜まで行く電車にも広告が出てたというような情報は入っております。

そういうようなところで、広域的なPRというのが企業さんのお力でできるところ、また同時に、西武鉄道さんと共催してございます、うまかんべえ～ウォーキング、こちらのほうは交流人口を見ますと約3割近くは市内の方で、ほかの7割以上は市外の方が御参加いただいているというのが、申込用紙で、これは分かっております。ですので、そういう企業さんのお力を借りながら、交流人口が増えていくところに期待をしたいと思っております。（「参加者数に対し売上額が減っちゃってるという……」と呼ぶ者あり）そうですね。

申し訳ありません。あとは経済効果についてのお話になります。

参加者、来場者が増えているにもかかわらず、会場内の売上額がというところでございますが、この表で見ますと第7回と第8回が一番分かりやすいかなと思ってございます。

実は、一概には言えないんですけども、第7回は235の団体の御協力がある中、協賛としてお店を出してくださる団体は、市外からいっぱい参加していただいております。つまりは、単価がかなり高い設定でされたというのも事実でございます。それを、第8回目からは公募をやめまして、本当に地元の皆さんでというところで進めてる中では、やはり地域に合った単価設定、そんなところでありますので、恐らくそういうところから金額面に反映されているのではないかというふうに思ってるところでございます。

以上でございます。

○委員（中間建二君） 今の御説明で理解ができました。

うまかんべえ～祭の会場の、また安全性の面からも、8万人程度が適正だという中で、そういう意味では、目標が達成された中での運営が続いてるというふうに理解をいたしました。

もう一方で、東大和市の観光事業、また産業振興っていう意味では、産業まつりがあるわけですけども、多くの方に足を運んでいただきたいっていう意味では、このうまかんべえ～祭と、また産業まつりと、東大和市にとっては2大イベントというような位置づけではないかなと思うんですけども、このうまかんべえ～祭に来ていただいた方に産業まつりに、また秋の産業まつりに足を運んでいただく、また産業まつりに来ていただいた方に、またうまかんべえ～祭にも足を運んでいただく、両者の連携ということについても、当然考えていらっしゃるかと思いますし、また産業まつりでも、うまかんべえ～での商品等も販売されたようなこともあったかと思うんですが、この2つのイベントの連携とか兼ね合い等については、どんな考え方で取り組まれているのか伺いたいと思います。

○市民部長（村上敏彰君） ただいま、市の産業に関する2大イベントであります、産業まつりとうまかんべえ～祭の相互連携っていうことでございますけども、お話でございますように、今産業まつりにつきましても、実行委員会、JAさんと、あと商工会を通じた実行委員さん、会員さんが基本的におやりになっていて、うまかんべえ～祭は、うまかんべえ～祭の実行委員会がおやりになってることでございますので、私どもとすると、こうせいあせいっていうことは直接的には申し上げられませんが、委員がおっしゃっておりますように、お祭りが春と秋、大きなお祭りが2つありますので、こちらを相乗効果で盛り上げていくということは、私どもだけではなく実行委員の皆様も、そのような形で思ってもらえると思いますので、そういった意見を相互に反映する中で、よりよいお祭りが、運営が築けたらというふうに、このように考えてございます。

以上でございます。

○委員（中間建二君） 最後1点ですけども、最後の7ページの観光連携事業で、先ほど御質疑がございました。

これも非常に、東大和市が今取り組んでる事業として大きな取組で、この後何としても成功してもらいたいと思うんですけども、この複数の自治体で取り組む困難さということについて、先ほど課題等もあるという御説明もいただきましたが、皆さん、各自治体、各団体、共通課題としては、この狭山丘陵の魅力を広く発信をし、多くの方に足を運んでいただくということの一つの目標が、ここはまあ当然あるかと思うんですけども、これについても、一定程度の目標、いわゆる地域内の方にどれぐらい足を運んでいただくのか、もしくは近隣、他の自治体から交流人口っていう意味では、どれぐらいの方に足を運んでいただくのか、またこの②で書いてある、お金が落ちる仕組みというところが一番大きな課題であり、ここに結びつけるということが一番大きな目標になってるかと思うんですけども、このあたりも、この後、具体的な取組が、何とか見いだしていこ

うということ而努力をされてる、またもしくは一定程度そのゴールが見えてるのか、そのあたりについても、ちょっと再度伺わせていただければと思います。

○市民部長（村上敏彰君） 狭山丘陵観光連携事業の今後ということでございますけども、先ほど宮田副参事のほうから御説明がございましたとおり、SAYAMA HILLS RIDEの実施に当たりましては、何をメインとしてくかということの、9団体の意思疎通というのに時間がかかったと申し上げましたけども、そこの中では、シェアサイクル、回遊性を求める手だてというんですか、二次交通事業の手だてをどうしようかということ、自転車というところに落ち着いたということ、今後はそれを広げる中で、どうやって交流人口を増やしてこうかということに取り組んでいこうということの意思疎通が、3年間をかけた中では、きちんと9団体の中ではできてきましたので、今後は、今委員さんがおっしゃったような交流人口をどうしてくんだとか、人数的にはどういうものを求めてくんだとか、そういう今後さらなる発展と申しますか、基礎ベースが、狭山丘陵観光連携のベースの意思疎通ができたというふうに考えてございます。

ですので、今後それをどう発展させてくかってことは、この9団体で同じ方向を向いた中で進めていきたいと、このように考えてございます。

以上です。

○委員長（床鍋義博君） そのほかありますか。

よろしいですか。

[発言する者なし]

○委員長（床鍋義博君） ただいま委員の皆様からいただきました御意見等につきましては、所管事務調査の報告書に反映させていただきたいと思っております。

続いて、今後の調査の進め方等についての御協議をいただきたいと思っておりますので、御意見等ございましたら、御発言をお願いいたします。

○委員（佐竹康彦君） このコロナ禍におきまして、これから所管事務調査を、この観光というテーマの下で進めていく中では、やはり本来であれば行政視察等で現地に行って、生のお声を直接伺うのがよろしいのかと思うんですけども、先進的な地域の資料等を手元で拝見させていただきながら皆様で意見を交換する、また、今、市の御担当者の方に様々御意見いただいた中で、これについても、じゃあこの委員会として、例えばこの狭山丘陵の観光連携事業についてどうだということを、ちょっと小さなテーマを設けて、みんなで意見交換をしていく、そういったことをするのが、まずはやれることなのかなというふうに考えてございます。

本来、このテーマだと、本来はいろんなところに、都内であっても、いろんなところにいろいろ行ければいいんですけども、なかなか難しいような状況になってしまっておりますので、そういった形で、座学ではないですけども。

また、もし可能であれば、例えばこの狭山丘陵の連携事業に携わった方にちょっとお越しいただいて、お話し伺うのもいいのかなというふうに思います。これは実現するかどうか別ですけども、そういったことを考えております。

以上です。

○委員長（床鍋義博君） そのほかよろしいですか。

○委員（中間建二君） 今佐竹委員のほうから述べていただいた方向が望ましいかと思っております。

先ほど、特にこれまでの東大和市の取組状況については、今日の資料等で確認ができたかと思っておりますが、こ

れからの取組として、やはり観光連携推進事業が大きな取組になるかと思いますし、また先ほど、自転車を活用した事業の今後の展開という方向性もありましたけども、今コロナ禍で、どうしてもこの密を避ける生活をしていかなきゃいけないという中で、いわゆる自転車を使った観光ということについては、今の流れからいくと大きく注目もされるし、また事業展開も、うまくやれば見込めるんじゃないかなというようなことも思いますが、そういった方向性についてもね、ぜひ委員会の中で一致点が見いだせればいいんじゃないかなというふうに思います。

以上です。

○委員（関田正民君） この観光事業1ページの、先ほど関係者の話を聞くのも大事なんじゃないかという話がありました。

そこですすね、ここでひとつ、大変名前を挙げて失礼かもしれませんが、木下委員がうまかんべえ～祭を長く実行委員長として、いろいろな苦勞をしてきたわけですよ。そういう中で、実際に現場にいた人間のいろいろな委員の意見を、こういう意見が出たよと、そういう実践的な経験の話をちょっと聞くのもいいのかなと。いろいろその人たちの考え方も分かるし、また実際にうまかんべえ～祭も大成功してるわけですから、何かそこで、いろんな面でヒントが得られるのかと。たまたまこう身近にいるものですから、無理にお願いしてね、もしできれば、お金は払いませんけど、参考の意見をちょっと聞かしてもらえればなど、そんなふうに思っています。木下委員には大変失礼ですが。

○委員（佐竹康彦君） 今の関田委員の意見には賛成でございまして、木下委員には御負担おかけするかもしれませんが、やはり現場で様々御苦勞されて、このイベントを育ててこられた当事者の方が委員の中にいらっしゃるの、ぜひお話を伺いたいと思います。

やはり、今御担当者の方のお話も伺って、例えば旧跡名所のような分かりやすい観光名所のようなものがない当市のような地域において、じゃあどうやって交流人口を生んでくのか、観光事業を進めていくのかっていうと、やはりその方向性としては、今おやりいただいているようなイベントですとか、今ある自然環境ですとか、今あるこの市内の事業者の方々と協力して、新たな価値を生み出す、新たな価値を創造してく、そういった知恵を出した事業展開が、やはり必要なのかなと、今お話を聞いて感じました。

そういった意味でも、当事者の方のお話、木下委員のお話を伺うのと併せまして、例えばそういった似たような条件の下で、イベント等の開催について成功を収めているような自治体ですとか、事業者の方のお話も併せて伺えたらなというふうに思いました。

以上です。

○委員（木下富雄君） いろいろな実行委員とかに所属してる皆様の意見を聞くということで、協力できるところは協力していきたいと思います。

また、私は、この狭山丘陵観光連携プランに参加している各自治体で、やっぱり建設環境委員会等が、観光事業等の推進に常に努めていることは事実だと思いますので、そういった機関との交流も、実行委員としてではなくですすね、どのような考え方で進めているとか、そのプラン等をお互いが出し合うというような交流の機会も大切であると思いますので、この狭山丘陵観光連携プランに参加してる各自治体の建設環境委員会等、観光に従事してるような委員会がもしあれば、そういうところの意見交換会等も進めていけば、違った側面から知識が得られるのかなと思いますので、そのようなところも今後は一考していただきたいと思います。

○委員長（床鍋義博君） よろしいですかね。

[発言する者なし]

○委員長（床鍋義博君） それでは、ただいま様々な御意見が出ました。各実行委員会の皆様の意見を聞くとか。この時期ですので、先ほど佐竹委員、そのほかも出ましたけれども、ほかのところに視察っていうところもなかなか難しい状況ではございます。

市内でそういう各委員会、もともと、そういう各実行委員会の意見を聞くってことは一番重要なことだと思いますので、そういったことを中心に、今後進めていくという方向で、あとは実際にどういう団体と、どういうふうにしていくかっていうのは、正副委員長でちょっと話して、また皆様のほうにお諮りしたいなというふうに思いますので、そのように進めさせていただくようにいたします。よろしくお願いいたします。

○委員長（床鍋義博君） お諮りいたします。

所管事務調査、観光行政に関することについてにつきましては、本日はこの程度にとどめたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○委員長（床鍋義博君） 御異議ないものと認め、さよう決めます。

○委員長（床鍋義博君） これをもって、令和2年第2回東大和市議会建設環境委員会を散会いたします。

午後 2時39分 散会

東大和市議会委員会条例第30条第1項の規定により、ここに署名する。

委 員 長 床 鍋 義 博